

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立東濃特別支援学校

学校番号	116
------	-----

自己評価

校訓	「輝くいのち、共に生きぬく」
学校教育目標	子どもたちの命を守り、願いや夢を実現する教育を実践するとともに、将来の社会参加や生活自立を可能にする教育活動の開発と創意に努める。
願う子どもの姿	「丈夫な子」「明るい子」「努力する子」

評価する領域・分野	小学部
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・「教職員」に関する設問に対し、高評価の回答者率が高く、職員が児童に愛情をもって接し、教育に熱心に取り組んでいることが評価されている。 ・「家庭との連携」に関する設問に対し、高評価の回答者率が高く、学校が積極的に保護者と連絡を取り、意思疎通を行っている結果が反映されている。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>家庭・学校生活に関する基礎的能力や意欲を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の心と身体を大切にする。 ・相手を思いやり、楽しく生活する。 ・目標や夢に向かって努力する。
重点目標を達成するための校内組織体制	学校教育目標の達成に向けて、学部や各分掌が連携を図り、学校全体として系統性のある指導体制で取り組む。
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分の心と身体を大切にする」性教育の実施 ・居住地校交流や肥田小交流の推進と実施 ・実際の生活に生きる力を育てるための、体験学習をはじめとした、具体的な活動を通じた学習の実施
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策にかかわる児童の様子 ・各種交流活動における児童の様子や、当校児童に対する交流相手の受け入れ状況 ・学校における教育活動全般を通じた児童の変容
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗いの仕方や正しいマスクの付け方等の学習 ・オンライン交流や間接交流での各種交流活動の実践 ・実際の生活に根差した、生活力を高めるための教育活動の実践
評価の視点	評価
① 手洗い、消毒、マスク着用等の定着状況。	A (B) C D
② 各種交流活動の実践。	A (B) C D
③ 児童の生活につながる教科学習や、体験的学習活動の実践。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<p>○新型コロナウイルス感染症対策のため、2部制にするなど方法を工夫して学部行事や児童会活動を実施した。児童も、学習の積み重ねや掲示物での啓発、こまめな言葉掛け等により、手洗いや消毒、マスク着用に対する意識付けができた。</p> <p>○肥田小交流（校種間交流学习）は、間接交流ではあったが、お互いに意識したり気遣ったりする様子があり、よい形で来年度につながった。居住地校交流では、オンライン交流ではあったが、「つながる」という交流の目的は達成できた。</p> <p>○単元計画を用いて授業のねらいを明確にし、職員間で共通意識をもって授業を行うことができた。また、児童の実態や目的によって柔軟にグループ分けをし、学</p>	A (B) C D

<p>習効果が高めることができた。</p> <p>▲教科・領域会をもう少し活用していけるとよい。</p> <p>▲挨拶や右側通行等の当たり前のことを、学部全体で取り組めるとよい。</p>	
<p>来年度に向けての改善方策案</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科・領域会を学期ごとに行い、単元計画等の見直しや成果の共有をしたり、合同授業の計画を立てたりする。共通理解したいことは学部会でも伝え、確実に引き継げるようにする。 ・年度初めに、小学部全体で取り組みたいことを共通理解し、児童会活動や学部行事等とも関連付けて児童・職員みんなで意識して取り組めるようにする。

<p>評価する領域・分野</p>	<p>中学部</p>
<p>現状及びアンケートの結果分析等</p>	<p>教師と生徒の関係が良好で、気軽に相談できる関係が築けているとの評価を受けており、保護者とのコミュニケーションも十分に図られているという結果が見られた。また、教師が愛情を持って生徒に接していることへの評価も高い。一方で、授業内容や進度が生徒の実態に即しているとの評価が約80%ほどであり、この割合を今後のさらに引き上げていきたい。</p>
<p>今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<p>小学部・小学校段階で積み上げてきた基礎的な力を学習や生活の場で活かし、変化に対応できる力を育てる。</p>
<p>重点目標を達成するための校内組織体制</p>	<p>学校教育目標に基づき、各教科・領域ごとに支援目標を掲げ、計画的な学習活動を工夫した。また、個々の実態に合わせて小グループ編成の学習を展開し、支援する教員側が円滑に企画、運営できる体制を組織した。</p>
<p>目標の達成に必要な具体的取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行、宿泊学習、校外学習、水泳実習、スケート実習、交通安全教室校種間交流等の明確な狙いに基づく体験的活動 ・職場等見学、作業学習集中週間、作業作品販売活動(ハッピーマーケット) ・居住地校交流、住民との各種交流活動、積極的発信
<p>達成度の判断・判定基準あるいは指標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習後の振り返りにおける自己評価 ・「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」の支援内容、成長の様子、学習状況・内容を保護者とともに検証・評価
<p>取組状況・実践内容等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、運動会や宿泊学習、各種校外学習が中止となり、学習活動が大幅に制限された。また、窯まつりでは恒例となっていた私学高校との共同演技もできなくなったが、その分中学部の生徒と教員が一体となって新しい発表を作り上げることができた。 ・生活単元学習では学年毎に系統的な取り組みができ、自立活動も個に応じた支援の工夫が見られた。 ・学部集会在定着し、生徒会の活躍する場面を意図的に設定することができた。また、生徒にも1ヶ月毎の振り返りや見通しを持たせることができた。

<p>評価の視点</p>	<p>評価</p>
<p>① 「教育活動・学習指導」…個に応じた指導の実践</p>	<p>A ③ C D</p>
<p>② 「進路指導」…「働く人になる」を目標とした進路指導</p>	<p>A ③ C D</p>
<p>③ 「保護者との連携」…綿密な情報の交換と共有、そして共通理解</p>	<p>A ③ C D</p>
<p>成果・課題</p>	<p>総合評価</p>
<p>○学年毎の生活単元学習や自立活動を体系的かつ計画的に取り組むことができた。</p> <p>○窯まつりや学部音楽発表会などで新しい考え方や取り組みが見られた。</p> <p>○各学年、学級で生徒を中心とした話し合いが頻繁に行われる職場環境になった。</p> <p>▲今年度は校種間交流や居住地校交流、校外学習が制限され、生徒の体験を伴う学習が大幅に不足した。</p>	<p>A ③ C D</p>

来年度に向けての改善方策案	重複学級在籍生徒の割合増加に伴う学部全体における学習形態の位置づけ、居住地校交流の狙いの明確化と交流発表の方法を模索、保護者とのより一層の信頼関係強化
---------------	---

評価する領域・分野	高等部
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 日々の教育活動や教員と生徒の信頼関係について、高い評価をいただいている。また、保護者との意思疎通にも高い評価をいただいている。 今年度は新型コロナウイルス感染症のため、校外での行事、特に実習が実施できない状況で、生徒の進路について不安を抱いている保護者からの相談が例年より多くあった。 施設設備の充実について、評価が低い。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 中学校、中学部段階で培ってきた能力を土台に、働くことの知識、技能の獲得や必要な習慣形成を図る。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 高等部全職員による指導、支援および連携を図る。
目標の達成に必要な具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> 行事への取組を通して、計画性や協調性の伸長 作業学習（校内、企業内）、現場実習の充実 保護者への進路情報の周知 高校との交流、共同学習
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> 実習や行事、授業等に取り組む姿勢及び生徒の感想等による自己評価 実習先での評価 保護者によるアンケート評価
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> 企業内作業学習や現場実習先の開拓に努めたが、新型コロナウイルス感染症の流行のため、1年生の実習は実施できず、2・3年生は1回ずつしか実施できなかった。 東濃フロンティア高校との共同学習をオンラインで実施した。 校外での作業学習製品販売会は実施できなかったが、新たな取り組みとしてネット上で商品を紹介して、高等部保護者への注文販売を行った。また地域の道の駅「志野・織部」にて常時作業製品の販売を行っていただいている。
評価の視点	評価
① 生徒の能力の伸長	A (B) C D
② 全職員の取組状態	A (B) C D
③ 保護者の期待	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> ○3年生の進路希望や実態に合わせた進路支援を行い、就労につなげることができた。 ○校外での行事は実施できなかったが、授業を通して自己の課題に向き合い克服する取り組みを通して、自己肯定感を持つことができた。 ▲一年を通して、先が見通せない状況が続き、行事や授業内容の変更に追われた。 ▲1年生の企業内作業学習や2年生の一部実習が中止となり、生徒が自己の進路や課題について考える機会を機能させることが難しかった。 	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や地域への情報発信（作業製品販売や進路情報等）を充実させる。 個々の生徒に合った支援を工夫し、授業研究や教材研究をさらに進める。 生徒の進路希望や実態に合わせた進路先の開拓を行う。

評価する領域・分野	教務
現状及びアンケートの結果分析等	「学校の授業には体験的な活動が取り入れられ、児童生徒は意欲的に取り組んでいる」の項目ではコロナ禍で昨年度よりやや低かったが、学校祭やオンライン配信の取り組み等が評価され、理解を得られている。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが「何を学ぶのか」が分かり、自分の考えや意見を表現できる授業実践を推進する。 体験的で主体的に学ぶ環境をつくり、さまざまな学びの機会を設定する。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 教務部の中に研修係りを設置し、新学習指導要領を活用した授業実践を推進する。 タブレットを使用した学習を推進するため、ICT活用推進委員会を設置し、運営方法等を協議する。
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> 指導案作成を推進し、授業をとおして単元のPDCAサイクルを意識した実践 単元計画の作成や年間計画の見直し オンライン配信を積極的に行い、学校生活や家庭生活の中に馴染みやすくするような取組
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> 授業実践をとおしての児童生徒の主体的な取組 児童生徒の体験的な学習からの学びの伸張
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業週間を設定し、「何を学ぶのか」を意識した授業づくり 学級、学年ごとに単元計画を作成し、年間計画の見直し ICT活用を推進するための研修会の実施
評価の視点	評価
② 子どもたちの学びが深まったか。	A (B) C D
④ 新学習指導要領を意識した授業づくりができたか。	(A) B C D
③ ICTを活用するための環境整備はできたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> ○新学習指導要領に基づいた指導と評価の年間計画の作成や授業実践に取り組むことができた。 ○オンラインを幅広く活用することができ、GIGAスクール構想によるタブレット等の整備を推進することができた。 ▲ICT活用を推進するにあたり職員に対する研修が不十分であると感じた。 	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用するために取り扱いも含め研修会を行い、職員全員に周知徹底すると共に、授業実践した内容等を共有していく。 新学習指導要領に基づいて作成した指導と評価の年間計画が有効に活用できているかの検証を行い、改善に努める。

評価する領域・分野	生徒支援
現状及びアンケートの結果分析等	教員と児童生徒のかかわりについては多くの保護者に理解していただいているが、教員が児童生徒とのかかわりの際に意識している体罰の防止やいじめ防止などの取り組み内容までは保護者に伝わっていない。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 教師対象に命の教育がテーマの教員研修の充実を図る。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 生徒支援委員会の開催や学部等での情報共有。 児童生徒向け学校生活アンケートの実施といじめ防止等対策検討委員会の実施。
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> スクールカウンセラーを講師に招いての教員向け講演会の開催 学校生活アンケートの内容について、必要に応じての担任と情報共有 交通安全教室や情報モラル教室の実施

	<ul style="list-style-type: none"> ・人権について考える授業を行う期間として「ひびきあい週間」の設定。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの有無やその後の対応について ・学校生活アンケートによる生徒の困り感についての問題解決 ・生徒支援委員会やいじめ防止検討委員会における意見・評価 ・児童生徒の学校生活の様子を踏まえた保護者からの意見
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒支援委員会やいじめ防止等対策検討委員会を開催し今後の支援の検討を行い、職員に情報共有を行った。 ・学校いじめ基本方針の確認・修正と、児童生徒への支援方法についての意見収集を目的としたいじめ防止等対策検討委員会の実施 ・コロナ禍で外部講師を招へいすることが難しかったが、いじめ防止や情報モラルについて授業を行うことで、教員が実態に合わせた内容を考え児童生徒に啓発を行うことができた。
評価の視点	評価
① 児童生徒が楽しく学校に登校でき、いじめの事実はなかったか。また、いじめを発見した場合に早期対応することができたか。	(A) B C D
② 職員間の児童生徒の情報共有ができていたか。	(A) B C D
③ 生徒のスマートフォン使用について、モラルを守った使い方ができていたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<p>○いじめ防止や早期発見のための学校生活アンケートを定期的に行ったり、年間を通してスクールカウンセラーを活用したりすることで、児童生徒の不安な気持ちを早期に発見し、対応することができた。</p> <p>○児童生徒が安心して学校生活を送ることができる体制が作れている。</p> <p>▲コミュニケーションを取ることが苦手対人関係を築くことが難しいため、コミュニケーション能力の育成が必要である。コミュニケーションの取り方の間違いが、いじめや情報モラル違反へとつながっている。</p> <p>▲いじめ防止や体罰防止など学校の取り組みについて保護者へ伝え、学校は安心・安全な場所であることを周知してかなければならない。</p>	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間とのかかわり方についてコミュニケーション能力の育成を踏まえた授業実践を行う。 ・児童生徒の生徒指導について、より一層生徒情報の共有を深める。また、いじめ防止検討委員会において支援方法に係る意見収集を行う。 ・携帯電話、スマートフォンについて、家庭と連携した取り組み体制を構築し、両者がより一層連携した支援を行う必要がある。 ・学校の取り組みについて定期的に保護者に周知する。

評価する領域・分野	健康支援
現状及びアンケートの結果分析等	<p>「学校は、児童生徒の安全に気を配り、緊急時の対応がしっかりしている」という評価が、昨年度より下がっていた。アクシデントやインシデント事案について職員への周知を即時に行い、児童生徒のけがを未然に防ぐために職員の共通理解をより深めていく。また、緊急時対応訓練では、様々な場面を想定したり、訓練内容について意見を交換して内容を深めたりする等、適切で迅速な対応ができるように備える。</p>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検や新型コロナウイルス感染症拡大予防対策を徹底する等、児童生徒が安心して健康的で安全な学校生活を送ることができる環境を整える。 ・家庭や地域と連携し、児童生徒自らが心と体の健康について「関心をもつ、守る、作る」ために必要な知識・技能・体力を身に付ける環境づくりを図る。

重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大予防対策について、消毒や給食・歯みがき指導等をスムーズに進めることができるよう、学校医、管理職、養護教諭、看護師、事務部と連携しながら随時職員に啓発している。 ・安全点検項目を細分化し、管理責任者が確認した後に担当者と管理職が状況を把握し、修理が必要などときには、事務部と連携して迅速に対応している。 ・各学年やクラスで児童生徒の実態に応じた健康教育（性教育、食育、体育活動、感染症予防等の衛生指導）を計画、実施している。
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・消毒、給食・歯みがき指導のガイドライン、チェックリストの作成 ・養護教諭、栄養教諭等と連携した健康教育の実施
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・職員から提出された各チェックリストの確認 ・健康教育の授業では、課題に取り組む姿や授業後の行動の様子
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修、学校安全ハンドブックの見直し・作成 ・健康教育では発達段階に応じて系統的に実施、授業記録を作成
評価の視点	評価
① 緊急時対応訓練や安全点検、チェックリストへの記入等を通して、安全な学校生活について教職員の専門的知識や資質を高めることができたか。	A (B) C D
② 児童生徒の実態に応じた健康教育の授業内容を工夫し、計画的に実践することができたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
○管理職や事務部と連携しながら感染症対策や細かな安全点検を行うことで、安全な学校生活に対する職員の意識を高めていくことができた。	A (B) C D
▲健康教育については各学年で年間指導計画に取り入れ、より計画的に行っていく。	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	健康教育の実践内容を随時回覧メール等で知らせて、学部の職員間で共有しながら系統性を高めていく。

評価する領域・分野	防災安全
現状及びアンケートの結果分析等	「学校は、児童生徒の安全に気を配り、緊急時の対応がしっかりとしている」という項目に対して 87.4%が「あてはまる」という評価があり昨年度よりポイントは下がっているが、学校の安全教育に関わる活動が概ね認められていると考える。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・非常変災時に対応するための命を守る訓練等各種訓練を実施し、対応マニュアルを検証する。 ・防災士や消防、警察等との連携を図りながら防災・防犯教育を実施する。 ・定期的に職員研修の実施や防災通信の発行を行い、防災教育に関わる啓発活動を推進する。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回の命を守る訓練及び年8回のショート命を守る訓練、引き渡し訓練を実施する。 ・消防署等と連携した検査の実施や危機管理マニュアルを見直す。 ・防災・減災に関する情報発信や啓発活動を行う。
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・火災や地震等のさまざまな想定訓練の実施 ・専門家を招いた防災・防犯教育の実施 ・定期的な職員研修の実施や年3回の防災通信の発行
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・各種防災訓練や研修の振り返りと、マニュアルの見直しと改善の共通理解 ・消防署による検査と、それによる指摘への改善を実施 ・職員への防災教育についてのアンケート実施

取組状況・実践内容等	命を守る訓練、ショート命を守る訓練、引き渡し訓練、備蓄の充実、防災教育研修、防火設備操作研修、不審者対応研修、校内環境整備。
評価の視点	評価
① 訓練や研修を通して、緊急時の対応・備えができていますか。	A (B) C D
② 地域と連携した防災安全活動が展開できているか。	A B (C) D
③ 全校で防災・減災教育の授業実践ができていますか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
○新型コロナウイルス対策等で制約もあったが、定期的に命を守る訓練やショート訓練を実施し、非常変災時の対応等を確認することができた。 ○職員研修や防災通信の発行を行い、防災に関する情報を発信することができた。 ▲専門家を招いた防災・防犯教育が中止となったが、来年度以降実施していけるとよい。 ▲ショート訓練も含め、命を守る行動をとるなどの意識は高まってきているが、慣れてしまっている面もあるので、さまざまな状況を想定した訓練を計画していく。	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	・各種訓練方法を見直し、内容をより当校の実情に即したものに。 ・防災上の安全対策等の環境整備を他分掌とも連携しながら進めていく。

評価する領域・分野	進路支援
現状及びアンケートの結果分析等	「進路に関する連絡や情報提供を児童生徒や保護者に向けて適切に行なっている」では、肯定的な評価が昨年度から9ポイント下がって81.3%、「進路指導において関係諸機関との連携をきめ細かく行っている」では、昨年度から5.2ポイント下がって68.2%だった。これは、進路通信が昨年度同様に発行できなかったこと、進路懇話会などの対面で実施する進路行事が実施できなかったことが要因になったのではないかと考えられる。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p><子どもたちの心と身体を大切にする組織づくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との情報交換や研修を通して、職員のスキルアップを図る。 ・保護者のニーズに合わせて情報提供し、進路支援への理解と啓発に努める。 <p><地域で明るく生活し、地域社会に貢献できる力の育成></p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業学習や実習等を通して、自己理解能力や社会自立に必要な力を育てる。 ・関係機関と連携し、卒業生の職場定着支援及び生活支援の充実を図る。 <p><「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業実践></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分らしい生き方を実現しようとする態度を育成する。 ・将来の姿を見通しながら、自立に向けて必要な力を育てる。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・分掌会での情報共有を図る。デジタルツールを活用する。 ・学部会や学年会で共通理解、各担任との積極的な情報交換を図る。 ・教務部や渉外部との連携を図る。
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・職員への情報提供と研修、保護者を対象とした相談会等の実施 ・関係機関の参加によるケース会議や懇談等の実施、追指導への同行
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の進路情報への関心や理解、保護者の懇話会や相談会への参加 ・高3生徒の進路実現と卒業生の職場定着の状況 ・各学年（部）の生徒の進路学習に対する関心や意欲
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者を対象とした進路相談会の実施（2回） ・関係機関と連携した卒業生の状況把握と支援 ・高3生徒を対象とした在学中から関係機関との交流 ・分掌内でのキャリア発達についての共通理解と、地域の事業所での新型コ

コロナウイルス感染症の影響等の情報共有	
評価の視点	評価
① 保護者が、必要な情報を得て、進路支援への意識を高めることができたか。	A (B) C D
② 卒業生が、それぞれの進路先に安定して通うことができたか。	(A) B C D
③ 生徒が自分の進路に関心を持ち、実現するために努力する姿が見られたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
○進路相談会へ参加する保護者が増えてきた。 ○関係機関と連携し卒業生の不安や悩みに早期に対応することができた。 ▲準ずる教育課程の進路支援では、本人との面談を実施することができたが、保護者への情報発信や将来を見通したが十分にできなかった。 ▲職員向けの進路に関する情報発信や、キャリア教育について共通理解等が十分にできなかった。	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・準ずる教育課程の進路支援について情報収集したり、進路説明会を実施したりして、本人、保護者のニーズに合わせた発信をする。 ・職員がキャリア教育について共通理解をし、それぞれの発達段階での「育てたい力」を意識して支援を行えるようにする。 ・受信しやすい、分かりやすい情報発信の仕方を検討し、実施する。

評価する領域・分野	地域支援センター（特別支援学校のセンター的機能）
現状及びアンケートの結果分析等	「地域のセンター的機能の役割を果たしている」については、約7割の保護者に高い評価をいただいた。しかし、「分からない」という評価も6%あり、センター的機能についてのさらなる周知が課題である。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・校外外の相談支援を積極的に行い、個々の教育的ニーズに応えるとともに地域や校内の特別支援教育における専門性の向上を図る。 ・地域の教育機関の支援者や保護者に情報の共有を図ったり、適切な教育的支援を講じたりする中で、地域におけるネットワークを強化する。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・地域支援センター ・特別支援教育コーディネーター
目標の達成に必要な具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の教育機関等からの依頼に応じた継続的な相談・支援 ・授業研究会、研修会の公開や情報通信の発行を通しての研修の場の提供 ・地域連携支援会議や福祉関係機関向けの公開授業、個別のケース会議の計画、実施
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援の依頼件数及びリピート率や相談支援後の報告書による検証 ・授業研究会や研修会の外部参加者数及び事後アンケート結果 ・地域連携支援会議、福祉関係機関向けの公開授業等の事後アンケート結果
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・教育機関等からの依頼に応じて相談支援の業務を遂行した。 ・授業研究会等を地域へ案内したり、情報通信を発行したりした。 ・地域連携支援会議や福祉関係機関向けの公開授業、個別のケース会議を実施した。外部機関とのネットワークを駆使し、校外外の支援に努めた。
評価の視点	評価
① 相談・支援の依頼内容により、地域の特別支援の質の向上が確かめられたか。	A (B) C D
② 研究会や研修会の案内、情報通信の発行は、専門性の向上に役立てられたか。	A (B) C D
③ 関係機関との連携はお互いの役割分担を含め、適切な支援につながったか。	(A) B C D
成果・課題	総合評価
○相談支援、来校相談・見学、支援登校の依頼があり、気軽に相談できるセンターとしての役割が定着し、ニーズに応えることができた。	

<p>○公開の授業研究会や研修会では、一定の参加者があり、今後も公開していきたい。</p> <p>○地域連携支援会議や福祉関係機関向けの公開授業を開催することができ、地域の教育・福祉・医療等関係機関や保護者との連携を図るとともに情報提供の機会にもなった。</p> <p>▲地域の特別支援教育の専門性の向上を目指して、さらに情報発信や研修の機会を計画する。</p> <p>▲センター的な役割としての適切な教育的支援を提供できるよう、研鑽を積む。</p>	<p>A (B) C D</p>
<p>来年度に向けての改善方策案</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育コーディネーターとしての専門性の向上を目指すとともに校内の支援を積極的に進め、職員の指導力の向上の一端を担う。 ・医療、福祉、教育機関とのネットワークをさらに強化するとともに日頃からそれぞれの役割を明確にした支援体制をつくるようにする。

<p>評価する領域・分野</p>	<p>涉外</p>
<p>現状及びアンケートの結果分析等</p>	<p>「学校は、地域に開かれた学校として学校開放を進めている」という項目に対して、「あてはまる」という意見が 62.5%であり、前年度から大幅に下がっている。新型コロナウイルス感染症対策のため、PTA行事や学校行事が中止になったり、校内のみでの行事に変更したものが多かったりしたことが影響したのではないかと。</p>
<p>今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で安全な生活を送るため、防災に関する意識を高める活動を設定する。 ・各種委員会を通して会員にとって楽しく充実した特色あるPTA活動を行う。 ・地域、関係諸機関との連携を推進し、児童生徒への理解と支援の充実を図る。
<p>重点目標を達成するための校内組織体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各地区や、委員会ごとに担当の教員を配置し、役員と連携して行事を行う。 ・市役所との意見交流会等を通して、防災についての知識や情報の収集、保護者の願いや考えの発信を行う。
<p>目標の達成に必要な具体的取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災に関する研修会の実施 ・有意義なPTA行事の実施 ・地域への作品展、市役所との意見交流会の実施等
<p>達成度の判断・判定基準あるいは指標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA行事での参加者の参加率や満足度 ・地域との連携（親子ふれあい祭り、意見交流会、情報発信、スポレク）
<p>取組状況・実践内容等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災映画研修会、ペアレントトレーニング研修会、学校祭遊びコーナー、市との意見交流会、リサイクル会の実施 ・広報誌発行、ベルマーク整理、PTA新聞の発行
<p>評価の視点</p>	<p>評価</p>
<p>① 防災について知識を深めることができたか。</p>	<p>A (B) C D</p>
<p>② PTA行事を通して、参加者が満足できたか（アンケート結果より）</p>	<p>A (B) C D</p>
<p>③ 地域と連携したPTA活動ができたか。</p>	<p>A B (C) D</p>
<p>成果・課題</p>	<p>総合評価</p>
<p>○防災映画を上映したり、市役所との懇談会で「障がいをもつ方は避難後にどう動けばよいか」等の意見を交換したりして、防災について意識を深めることができた。</p> <p>○PTA総会の紙面決議やPTA行事の規模縮小等、新型コロナウイルス感染症対策として臨機応変に対応することができた。</p> <p>▲新型コロナウイルス感染症対策として、PTAの資源回収やテトラパック箱詰め作業、施設見学、地区懇談会、福祉振興大会、各種研修会等が中止となった。来年度もできる活動を行っていく。</p> <p>▲2回のPTA研修会では参加者は大変満足していたが、参加人数は少なかった。出席できなかった会員のために内容をPTA新聞やHP等で知らせていきたい。</p>	<p>A (B) C D</p>

来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA 新聞をより発行し、PTA 活動やPTA 本部役員の仕事内容の紹介をする。 ・新型コロナウイルス感染症の状況が落ち着けば、PTA 行事「親子ふれあい祭り」にボランティア（当校生徒、兄弟）の参加を呼び掛けていきたい。 ・PTA本部役員会を減らしたり、活動内容を見直したりして、PTA本部役員の負担を軽減していきたい。
---------------	---

評価する領域・分野	寄宿舎（舎務部）
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の安全に気を配り、緊急時の対応がしっかりしている。（87.4%） ・児童生徒が社会生活の基礎的・基本的な力を身に付けられるような指導をしている。（87.9%） ・個々の障がいや教育的ニーズに応じた教育を進めている。（82.3%） <p>以上、3点について80%以上と高く、生活自立や社会参加に向けた取組に高評価をいただいている。</p>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもたちの心と身体を大切にする組織づくり ・生活のさまざまな場面で訓練や体験活動を定期的に行う。 ・食や性について、保護者や担任、関係する分掌と積極的に連携を図り、適切な支援・指導をしていく。 ○主体的・対話的で深い学びに向けた実践 ・寄宿舎での行事や自治会、余暇活動等を舎生が主体的に取り組める場として充実させていく。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・指導員部会、チーフ会、舎内分掌会（総務、庶務、保健安全、研修、舎生支援）等で指導員間の連携を図る。 ・支援グループを組織し、個々の生活上の課題に応じた支援を検討・実施する。 ・学部や関係する校務分掌との連携を図る。
目標の達成に必要な具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な各種訓練や体験活動の実施 ・舎生の役員会を定期的に設け、話し合いやアンケートを中心に、行事や生活のルール等の主体的な提案・企画、運営 ・実態や目的に応じた食や性についての活動と支援
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・各種訓練や体験活動の舎生の姿 ・生活上の課題における個々の実態の変容
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・命を守る訓練3回、防災体験1回、不審者対応訓練1回、搜索訓練2回、緊急時対応訓練月2回を実施した。 ・畑での野菜作り、栄養教諭による食育を実施した。 ・舎生会の運営、各種行事、余暇活動を実施した。 ・発達段階表や生活面の実態表等から、支援のポイントを明確にした支援・指導を実施した。

評価の視点	評価
①各種訓練を実施し、命を守る基本的な方法や手段が身につくように習慣づけができたか。	A (B) C D
①食や性について、舎生が学べる場を設定し、個に応じた支援・指導を行うことができたか。	A (B) C D
② 舎生が主体的に活動に取り組める力を身に付けることができたか。	(A) B C D
成果・課題	総合評価
○感染予防のためにいろいろな制約がある中、舎生が考えた形にできるだけ沿った行事や余暇活動等を実施することができた。	A (B) C D
○各種訓練は全体での動きは困難な面があったが、個別に対応することができ	

<p>た。また、生活の中での感染予防について、繰り返し啓発し、意識付けることができた。</p> <p>▲食や性について、断続的な取組となっていた。舎生の実態に合わせて、計画的・段階的に取り組んでいく必要がある。</p> <p>▲舎生の支援について、学部と共通理解が十分に図れていなかったため、支援に一貫性がなかった。</p>	
<p>来年度に向けての改善方策案</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・畑を引き続き活用し、個の実態に合わせて計画的に食育を実施していく。 ・舎生について、学部との連携を十分に図り、状況に応じてケース会議等を積極的に行っていく。

学校関係者評価

<p>意見・要望・評価等（学校アンケート、及び第2回学校評議員会等より）</p>	
<p>1 保護者への学校アンケート結果について</p> <p>97. 1%の回答率で、高評価項目（1よくあてはまる、2あてはまるが90%以上のもの）が6項目であった。項目数は昨年度を下回ったが、その項目については、教職員の姿勢や態度に関する項目や家庭連携、児童生徒の様子や、指導支援の在り方に関するものが挙げられた。</p> <p>一方で、昨年度の高評価項目の中で5%以上ポイントが下がった3項目については、新型コロナウイルス感染症予防対策のため学校行事や教育活動の在り方が大きく変化し、校外学習を含む体験的な活動や交流学习の見直し、教育活動の公開機会の減少等により、学校の教育方針の理解や指導内容への共感が得られにくかったことに起因すると考えられる。</p> <p>課題としては、昨年度の34. 8%に比しては低かったものの、32. 3%の保護者より、施設設備の不十分さを指摘された。その他、10%を越える課題項目はなかった。</p>	
<p>2 学校評議員より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、新型コロナウイルスの感染が増える中、これだけの取組ができたことが素晴らしいと思った。まだまだコロナ禍は終わったわけではないので、児童生徒はもちろん、教職員も体につけて、頑張ってもらいたい。 ・貴校生徒の卒業後の受け皿として、職員全員が成長し、安心して通ってもらえるようにしていきたいと考えている。また、学校とも協力し合いながら、卒業後も充実した生活を送ってもらえるよう頑張りたいので、今後ともよろしくお願ひしたい。 ・以前学校に伺った際、生徒たちが良い表情でさまざまな事に取り組んでいる姿を見た。それが、卒業後の生活にもつながっていくとよいと思う。 ・コロナ禍により、さまざまなことが縮小や自粛となっている中で、感染症対策をとり、感染予防に留意しながら、生徒たちの貴重な学校生活が実りあるものとなるよう、学校ではできる限りのことをさせていただいていると思う。 ・いつも一生懸命子どもたちのために尽力していただいていると思う。 	